

華やか、元気に傘寿の会

昭和32年卒同期会

9月2日、ホテルメトロポリタン秋田に32会の仲間35人が出席し(県外出席5人)、傘寿を祝う会が開催されました。年齢的には1年早いのですが、鬼籍に入られる方の増加が目立ち、慶事でもあり前倒しで実施したものです。

特別イベントとして秋田舞妓を会場に呼んで、皆さんと一緒に宴を盛り上げてくれました。会は一気に盛り上がり、孫と同年齢の舞妓と語り、そして写真を撮り、また紅一点として柴田協子さんの出席もあり、近年見られない、華やかでそして愉快的な同期会となりました。

やがて宴たけなわとなり、佐々木信吾副会長の中締めで、2020年東京オリンピックまで頑張って継続しましょう!!との檄も飛び、全員起立!「校歌大合唱!!」となり、ホテル内の2次会へと繰り込みました(なんと19人の参加)。今年も相変わらず元気な32会でした。(國安 志郎 記)



40回で幕、有終の同期会

昭和25年卒同期会

昭和25年卒の第40回最終同期会を9月17日、協働大町ビルで開催した。実は傘寿の年の平成22年に、最終のつもりで第34回千秋楽同期会と称して大々的に開催した。当日、千秋楽が終わっても地方巡業があるではないかとの声が高く、当時の渡部誠一郎代表幹事が「今までとは形態の違う同期会を年1回開催する」と宣言し、その後も毎年開催してきた。しかし、年齢も85を過ぎ、事務局業務の負担も大きく、今回の40回をもって最終としたものである。

最終とあって県外出席者も多く、また今回が最初で最後の出席者もあり、総計54人の出席者で大変賑やかなものとなった。会は校歌・同期会歌合唱、大友康二代表の挨拶の後、出席者全員に「我が人生に乾杯」状が贈呈された。その後、赤れんが館前で秋高校章の提灯が入った祝賀竿燈2本が上がった。その余韻に浸りながら菅原三朗さんの乾杯で祝宴が始まった。宴中半では五星会による秋田民謡も演じられ、県外参加者を楽しませた。締めは東京からの参加者の神崎泰雄さんの乾杯で健康・長寿を祈念し、会を閉じた。その後、名残りもつきず、年を忘れ2次会へ大半が流れたのは言うまでもない。(田中 孝一 記)



1年半ごと23回目の開催

昭和46年卒同期会

我が昭和46年卒同期会は、1年半ごとに正月と盆の交互に開催している。数えてみると23回目となる同期会を8月14日午後5時45分からアキタパークホテルで開催した。今回は日中、ゴルフコンペも併催したせいか、参加者は前回よりも10人ほど多いちょうど50人であった。来賓はお元気な恩師5人に案内をしたが、一番お若い齋藤淳先生だけの出席であった。

今野真人君の司会で開会。物故者への黙祷、菊地隆幹理事長と齋藤淳先生の挨拶の後、副知事の堀井啓一君の乾杯で祝宴開始。開宴後は45年前にタイムスリップしての懐かしい話や孫の自慢話などに花が咲いた。遠くは福岡から、また卒業後初の参加者などもおり、何人かからのスピーチ。まだ現職の人もおり、皆さんそれぞれの立ち位置で活躍していることがうれしかった。3時間近い会の締めは、応援団OBの藤川長敏君のリードによる校友会歌斉唱、清水玲子さんの乾杯で、1年半後の再会を誓い閉会した。(堀井 深芳 記)



校歌5番まで全員が熱唱

昭和42年卒同期会

幹事輪番制で四二会を開催するようになって6年目。2巡目に入った今年も約束の9月第1土曜日、協働大町ビルに安田浩幸校長を来賓としてお招きしておよそ70人の仲間が集まった。

初めにこの1年間に他界した恩師梶原忠郎、武田武志両先生と2人の仲間のご冥福を祈って黙祷をした。全員で校歌を全5番まで歌い終わった後、安田校長が挨拶の中で校歌について触れた。「文武両道、全人教育を掲げる秋田高校の教育目標は、校歌の2番くわが生わが世の天職いかに>と、4番く敬天愛人 理想を高く/おのを修めて世のためつくす>に詰まっており、学校では今も生徒たちに校歌を全5番まで歌わせている」と語った。

久闊を叙して乾杯。やがて滑らかになった口を携えて皆がテーブル間を大移動。友との談笑はいつ果てるともなく続いた。最後は元応援団長池田和男君のリードで校友会歌を大合唱、来年の卒業50周年での再会を誓って散会した。(石井 仁 記)

